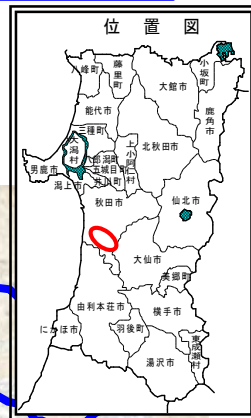


雄和中央土地改良区

受益面積 1,030ha



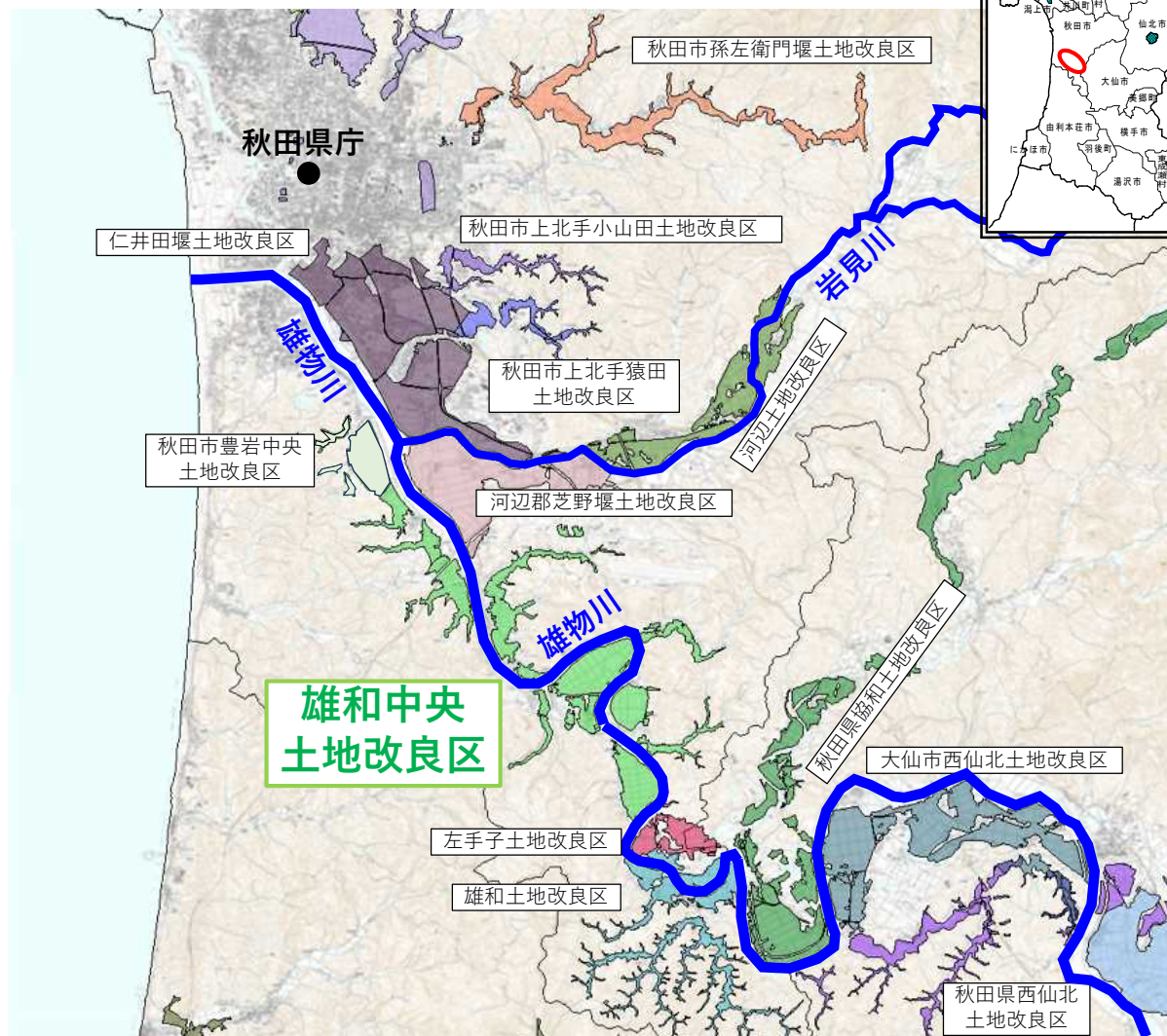
- 雄物川の下流域の左右岸に広がる受益地を有する土地改良区。
- 沢部の受益地はため池及び頭首工を主水源とし、雄物川が蛇行する平野部は揚水機場を取水源とする。



南部工区の平沢大堤



平沢大堤の受益地



【内 容】

■ 工区の構成・沿革

1. 豊岩小山工区／下黒瀬工区

■ 水利システム【豊岩小山工区／下黒瀬工区】

- ・（各施設の状況）下黒瀬工区

■ 地域の歴史【下黒瀬工区】

2. 椿川工区／南部工区

■ 水利システム【椿川工区／南部工区】

- ・（各施設の状況）椿川工区
- ・（各施設の状況）南部工区

3. 相川工区／大沢工区

■ 水利システム【相川工区／大沢工区】

- ・（各施設の状況）相川工区
- ・（各施設の状況）大沢工区

4. 女米木工区

■ 水利システム【女米木工区】

- ・（各施設の状況）女米木工区

5. 平尾鳥／種沢工区

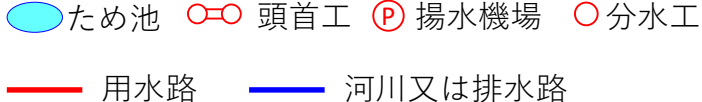
■ 水利システム【平尾鳥／種沢工区】

- ・（各施設の状況）平尾鳥工区
- ・（各施設の状況）種沢／種沢（金ヶ崎）工区

■ 地域の歴史【種沢／種沢（金ヶ崎）工区】

■ 施設の維持保全

■ ほ場整備事業

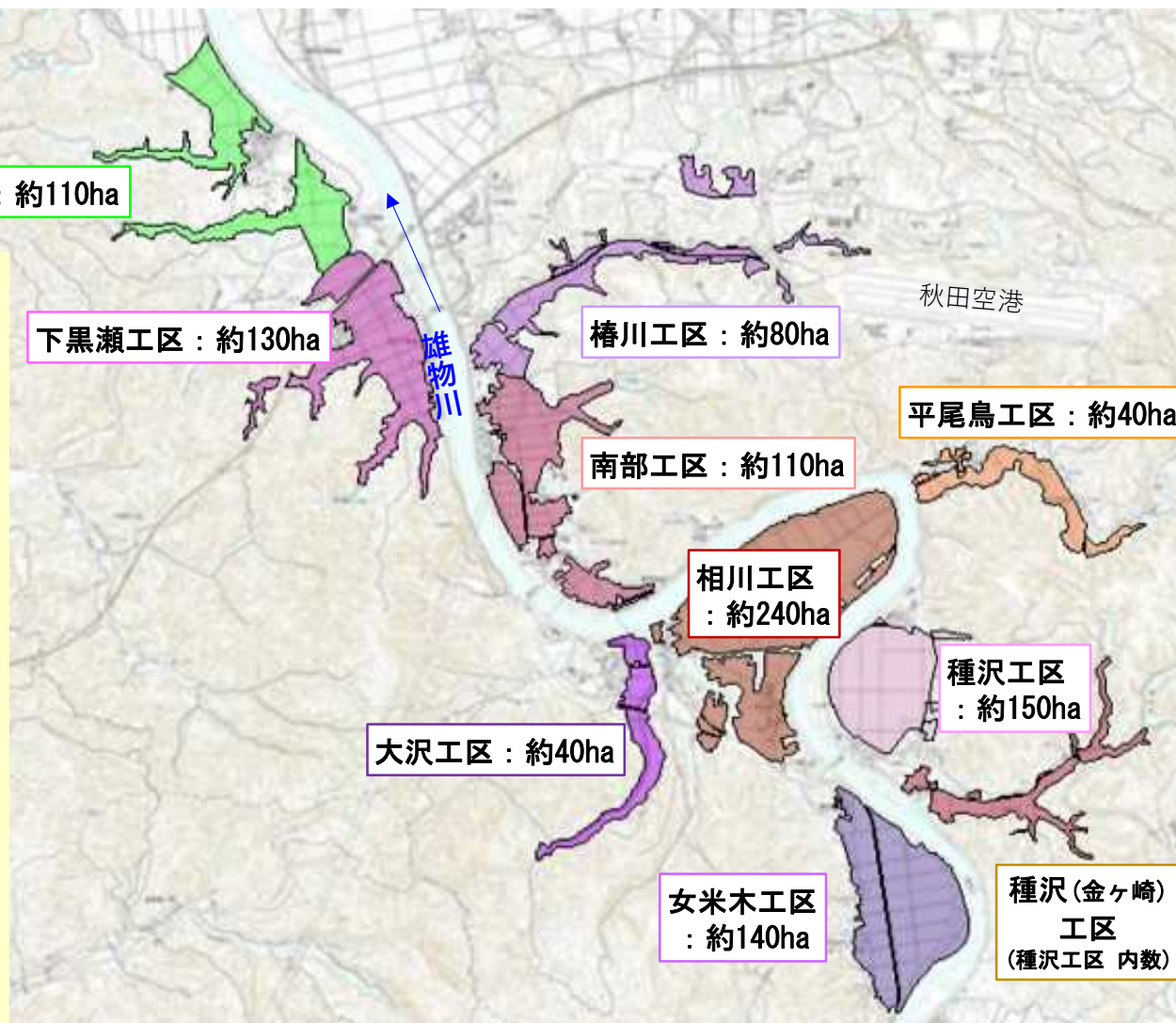
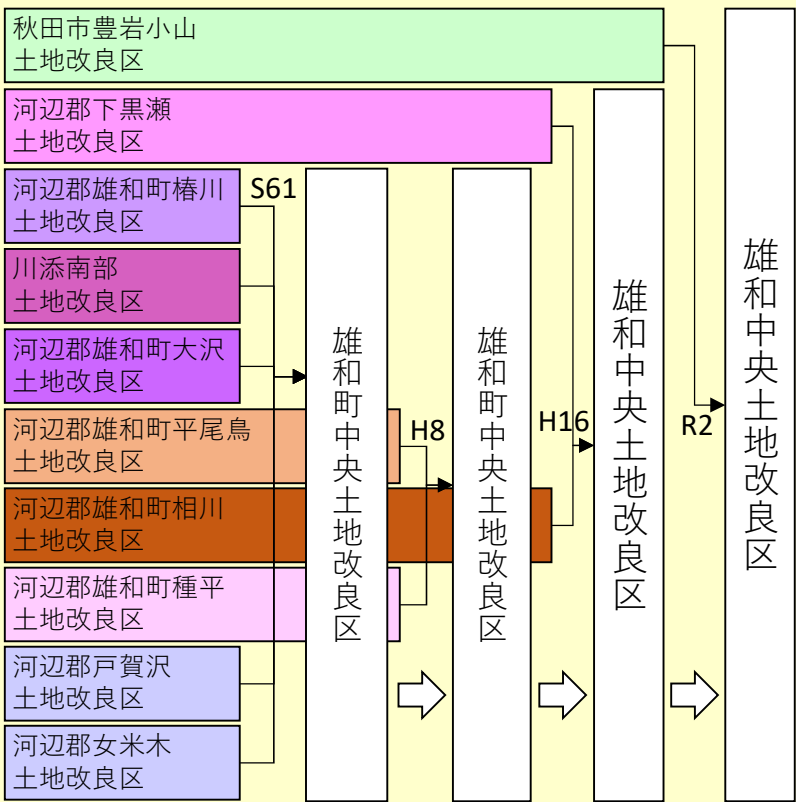
作 成	秋田県 農業農村整備等技術検討委員会 秋田県秋田地域振興局農村整備課
協 力	・ 雄和中央土地改良区 ・ 秋田市 ・ 秋田県土地改良事業団体連合会
作成経緯	ver. 1.0 令和 7 年 3 月
基本凡例	 ● ため池 ● 頭首工 ● 揚水機場 ● 分水工 — 用水路 — 河川又は排水路 ※ 資料作成の都合上、必ずしもこれらのとおりの表記となっていない場合がある
出 典	・ 秋田県水土里情報システムのレイヤを使用したものは次のとおり 地形図：「測量法に基づく国土地理院長承認（使用） R6JHs 74-GISMAP59536号」 航空写真：「© NTT InfraNet, JAXA」 衛星写真：「© NTT InfraNet, Maxar Technologies.」 ・ その他土地改良区提供資料など
備 考	本資料は、秋田県の農業を支える基盤であり、地域資源でもある農業水利施設について、土地改良区毎にその構成、歴史、維持管理等の概略を示し、土地改良区の組合員のみならず地域住民の皆様に対し広く周知するものです。 これにより、各地域の農業水利施設を保全管理することの重要性について理解を深めていただき、農業水利施設の持続的な機能発揮と秋田県の農業の発展の一助となることを目指しています。 本資料については、現地調査に加え、水土里情報システム内の資料、過去に実施した事業の資料、土地改良区からの提供資料、土地改良区からの聞き取りなどをベースに作成していることから、時点が古い情報や現状と比較し正確ではない情報が含まれていることがあります。このため、本資料を閲覧される方に置かれましては、このことを予め御了知いただくとともに、本資料を利用すること等により生じるトラブルや損害等については、秋田県ではその責任を負いかねますので、予め了承ください。

工区の構成・沿革

雄物川沿いに独立分散し個々の工区がそれぞれの水利システムを有する

- 雄物川左岸に5工区、右岸に4工区、計9工区から構成され、合併前の旧土地改良区の名称を冠している場合が多い。
- 各工区はそれぞれ独立した水源を有しており、沢部は主にため池及び頭首工、河川蛇行部のまとまった平野部は主に揚水機場から取水している。さらにため池を有している工区が多い。

土地改良区の合併の経緯



水利システム

豊岩小山工区／下黒瀬工区

揚水機場・ため池の複合システム

■ 豊岩小山工区・下黒瀬工区とも、沢部は小河川とその流路上に設けられたため池に水源を依存し、雄物川に近いまとまった平野部においては揚水機場と上流のため池からの複合取水。

豊岩小山工区

河川	施設	堤高	堤長	有効貯水量
	苗代沢ため池	12.1 m	101 m	210千m3
	小山沢ため池	9.7 m	89 m	110千m3
	大沢ため池	10.5 m	69 m	504千m3

下黒瀬工区

河川	施設	堤高	堤長	有効貯水量
	白根沢ため池			
	黒瀬沢第1ため池	9.3 m	107 m	187.9千m3
	黒瀬沢第2ため池	5.7 m	83 m	14千m3
	小沢ため池			
	湯野沢第1ため池	8.1 m	63 m	30千m3
	湯野沢第2ため池	3.4 m	35 m	1.6千m3
	湯野沢第3ため池	2.4 m	29 m	3.8千m3
	大詰沢ため池	6.8 m	46 m	13.6千m3
	岩野沢ため池	8.5 m	81 m	56千m3
	八田第1ため池			
	八田第2ため池			



各施設の状況 **下黒瀬工区** 沢部はため池掛かり、雄物川沿いの平野部は揚水機場掛かりの水利システム

黒瀬沢第1ため池



黒瀬沢第2ため池



黒瀬沢ため池の幹線水路



黒瀬沢ため池の幹線水路・余水吐



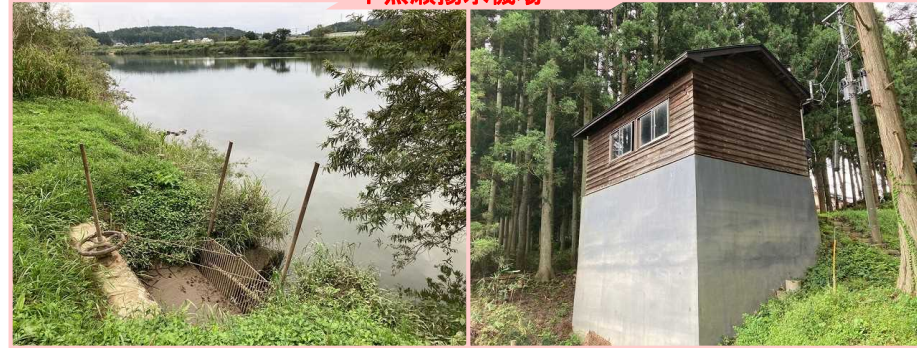
黒瀬沢ため池幹線水路の分水工・小用水路



黒瀬沢ため池掛かりの受益地



下黒瀬揚水機場



石碑は語る

竣工記念碑

我が郷土下黒瀬土地改良区の地域は標高20メートル雄物川左岸に位するは平坦な耕地である。
その土質は比較的肥沃な腐植質壤土であるが何分にも旧態依然たる未整理地であったためか不良用水の不足道水路の不備などの悪条件のもとではいかに進歩した近代農業技術の粋を尽くしてもその効果を十分に発揮することができないのみならず生産力もすでに限界点に達していることは地域民のひとしく憂えるところであった。
このような事情から従来しばしば郷土内外の先覚者によって区画整理の断行が提唱されてきたのであるが地域民の経済事情その他諸種の情勢によって容易にふみきれないまま今日に至った。
たまたま昭和33年の大干害にめぐりあい稲の生育は著しく阻害され続いて秋取入時期の長雨で稲の倒伏はなはだしくその上この泥湿田からの収納には計り知れない労力と経費を要したのでかかる状態を毎年くり返すことはとうてい耐えがたいことを覚り昭和三十三年十一月三十日総会を開き満場一致をもって区画整理事業に着手することを決議したのである。
計画の遂行の途上には地域民相互の利害調整の上でさらに多くの協議を必要としたがたゆまぬ協力と和の精神は幾多の困難を克服してここに本事業を完成した。
計画当初の耕地面積は下黒瀬地区十七町壹反五畝貳拾歩下浜地区拾四町八反拾八歩合計百壹町九反六畝八歩であったが工事完了の現在は湯ノ目ため池（通称がつぎ堤）干拓地を合わせ百九町0反0畝四歩の美田ができあがったのである。
われわれは団結と強調によるこのうるわしい成果を子孫と共に末永く守り郷土の発展につくすことを念願するとともにこの事業完遂の感激を永久に記念せんとするものである。

事業経過の概要

- | | |
|----------------------|---------------------|
| 一、事業認可 昭和35年7月20日 | 一、工事の着工 昭和35年9月17日 |
| 一、工事の完成 昭和37年3月31日 | 一、工事費区画事業費 壹千四百六拾五萬 |
| 一、工事の費用 揚水事業費 七百五拾萬円 | 合計貳千貳百壹拾五萬 |
- (略)
- 昭和37年9月吉日 建立 河辺郡下黒瀬土地改良区



記念碑のある村杜鶴ヶ崎神社



H31～県営ほ場整備事業「下黒瀬地区」における区画整理工事

水利システム 椿川工区／南部工区 頭首工・ため池の複合システム／揚水機場・ため池の複合システム

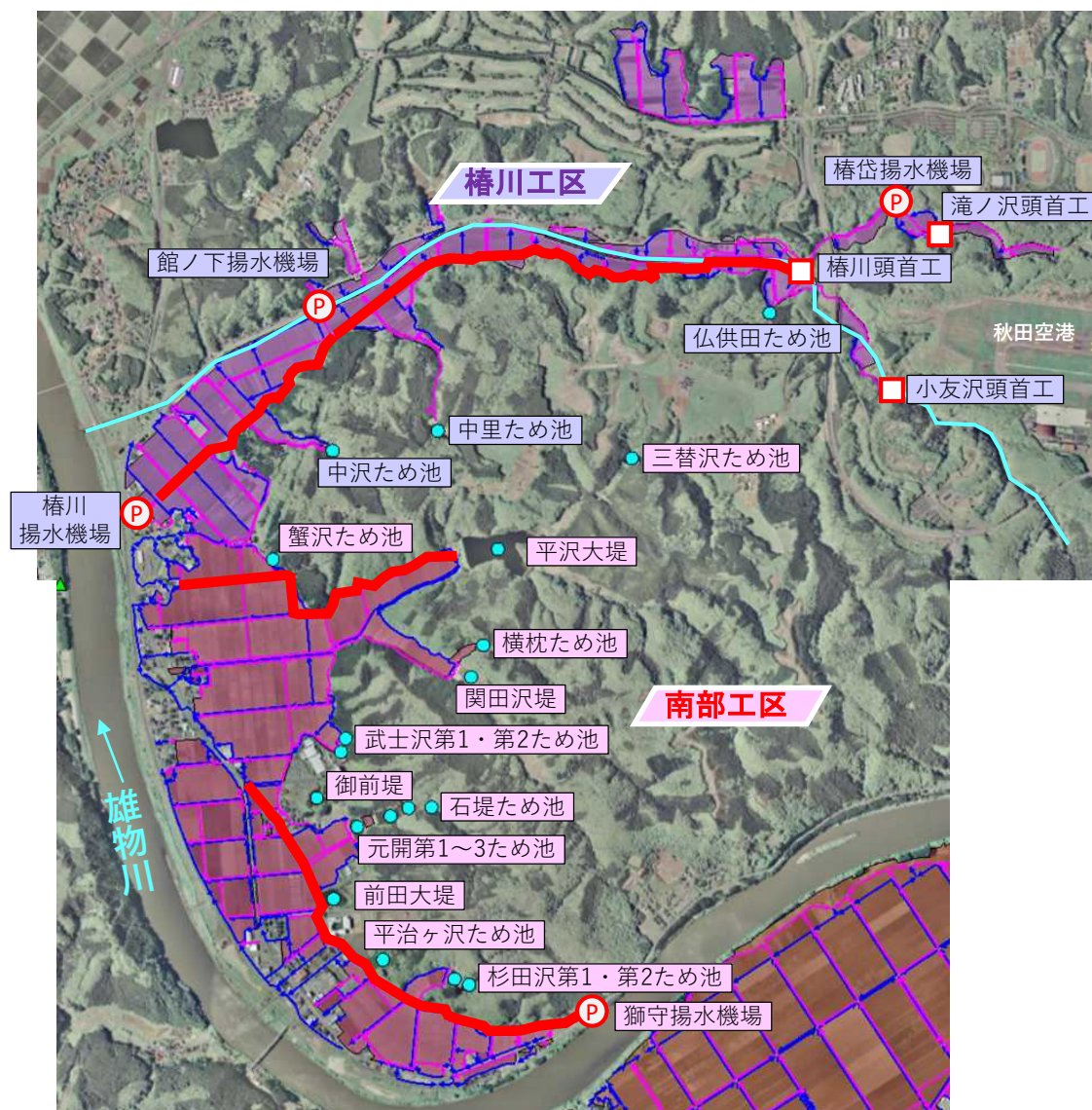
- 椿川工区は頭首工から開水路で配水する供給主導型システムだが、下流側においては揚水機場により補水を行う。
- 南部工区は獅守揚水機場からの開水路系と、平沢大堤等からの開水路系から構成され、それぞれ供給主導型システム。

椿川工区

河川	施設	堤高	堤長	有効貯水量
	仏供田ため池	—	—	—
	中里ため池	10.4 ha	72 m	197.4千m3
	中沢ため池	4.1 ha	38 m	1.4千m3

南部工区

河川	施設	堤高	堤長	有効貯水量
	三替沢ため池	4.9 m	51 m	6.3千m ³
	平沢大堤	7.4 m	150 m	149.5千m ³
	横枕ため池	2.0 m	37 m	1千m ³
	関田沢ため池	3.4 m	188 m	12千m ³
	蟹沢ため池	0.6 m	15 m	1千m ³
	武士沢第1ため池	2.6 m	53 m	2千m ³
	武士沢第2ため池	3.0 m	43 m	0.7千m ³
	杉田沢第1ため池	2.9 m	81 m	4千m ³
	杉田沢第2ため池	4.7 m	70 m	7.1千m ³
	平治ヶ沢ため池	4.4 m	80 m	12千m ³
	前田大堤	2.9 m	140 m	6千m ³
	石堤ため池	2.4 m	40 m	4千m ³
	元開第1ため池	2.7 m	124 m	9千m ³
	元開第2・第3ため池	6.3 m	68 m	35千m ³
	御前堤	1.7 m	45 m	3.8千m ³







水利システム

- 相川工区
- 大沢工区

ため池・頭首工による供給主導型システム
ため池・揚水機場による複合システム

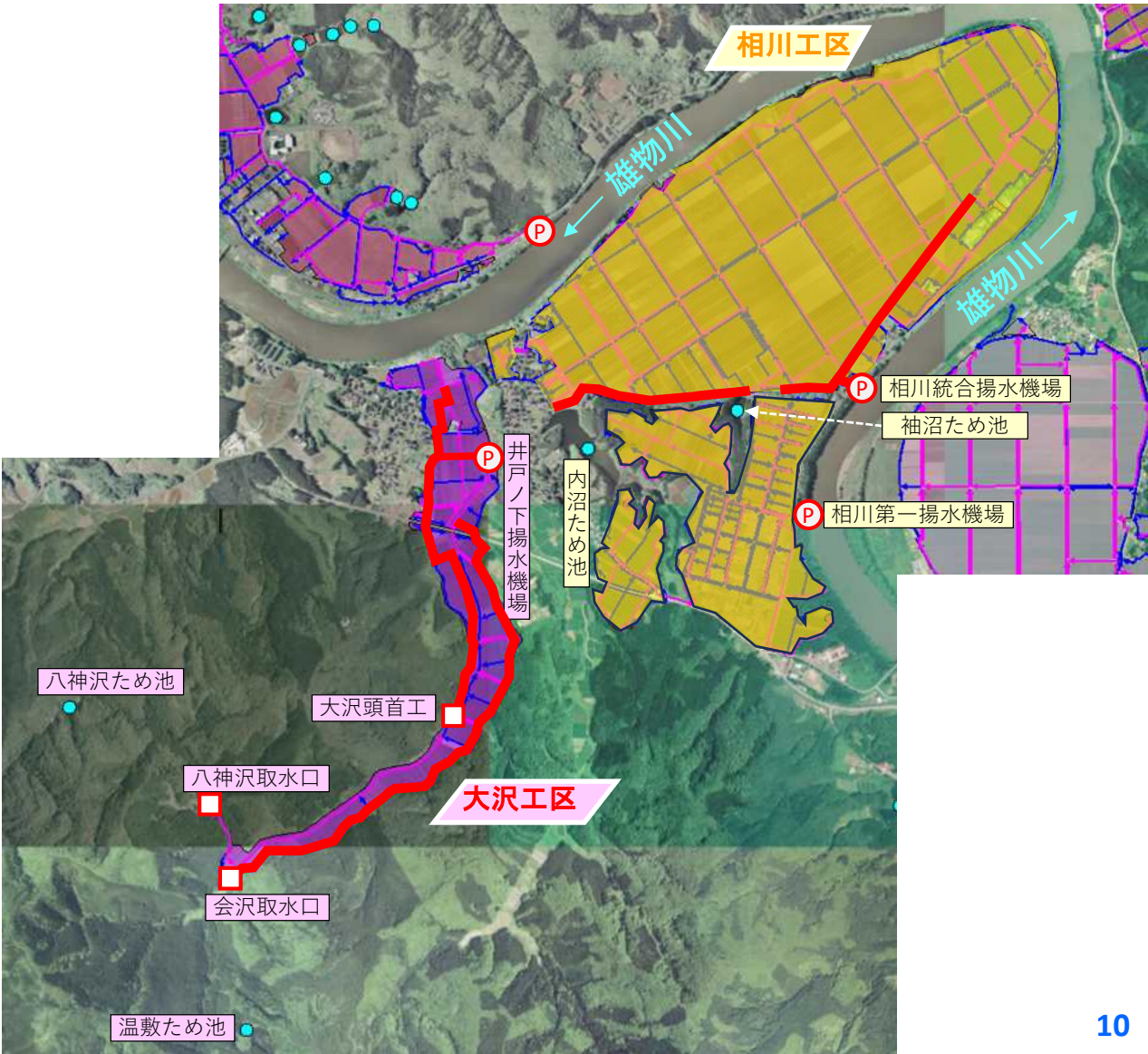
- 相川工区は相川統合・相川第一の2揚水機場を主水源とする。県の農業試験場が受益地内にある。
- 大沢工区は頭首工により取水し開水路により送水する供給主導型システム。

相川工区

河川	施設	堤高	堤長	有効貯水量
	袖沼ため池	2.8 ha	45 m	7.9千m3
	内沼ため池	5.0 ha	118 m	200千m3

大沢工区

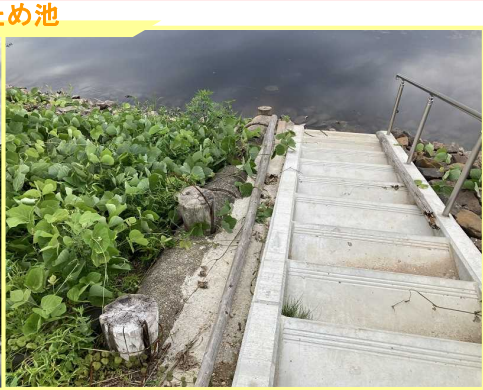
河川	施設	堤高	堤長	有効貯水量
	八神沢ため池	9.3 m	37 m	27.5千m3
	温敷ため池	2.4 m	22 m	5.3千m3



各施設の状況

相川工区

相川統合揚水機場、相川第一揚水機場掛かりとも県の試験場を受益に持つ



各施設の状況 **大沢工区** 会沢取水口・大沢頭首工等から開水路により送水する供給主導型システム

会沢取水口



会沢幹線への対岸からの注水



会沢取水口の幹線水路



幹線からの分水



末端ほ場への取入口



末端ほ場への取入口



大沢頭首工



大沢頭首工の幹線水路

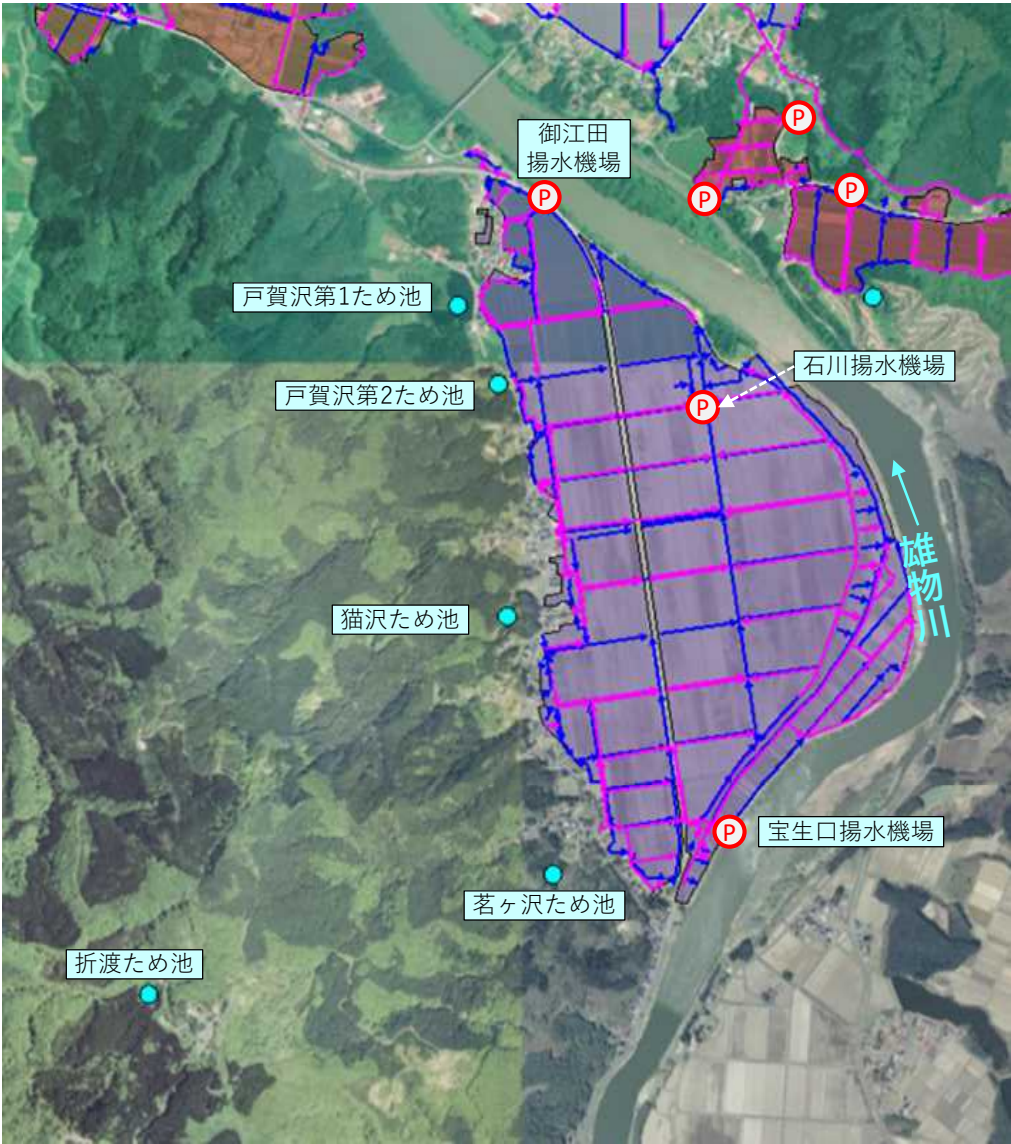


薬師前ポンプ



女米木工区

河川	施設	堤高	堤長	有効貯水量
	折渡ため池	11.1 m	38 m	8千m3
	茗ヶ沢ため池	8.0 m	46 m	12千m3
	猫沢ため池	8.0 m	37 m	12千m3
	戸賀沢第1ため池	6.0 m	150 m	41.2千m3
	戸賀沢第2ため池	4.8 m	50 ha	3.2千m3



各施設の状況 女米木工区 ため池・揚水機場掛かりとも開水路による供給主導型システム

戸賀沢第1ため池



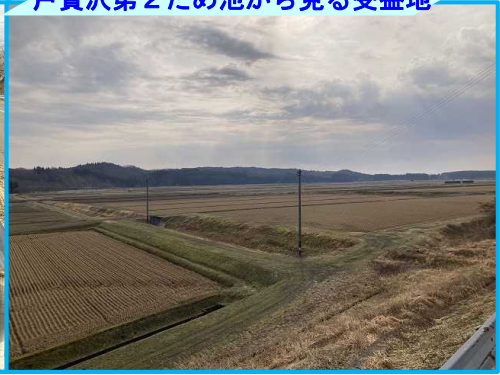
戸賀沢第1ため池から見る受益地



戸賀沢第2ため池



戸賀沢第2ため池から見る受益地



御江田揚水機場



猫沢ため池



茗ヶ沢ため池



宝生口揚水機場



築場頭首工



築場幹線水路 河川放流工



築場幹線水路 受益地



各施設の状況 種沢／種沢（金ヶ崎）工区 種沢頭首工、揚水機場、小規模ため池を組み合わせた取水



石碑は語る

県営ため池等整備事業(老朽ため池)柳林地区 竣工記念碑

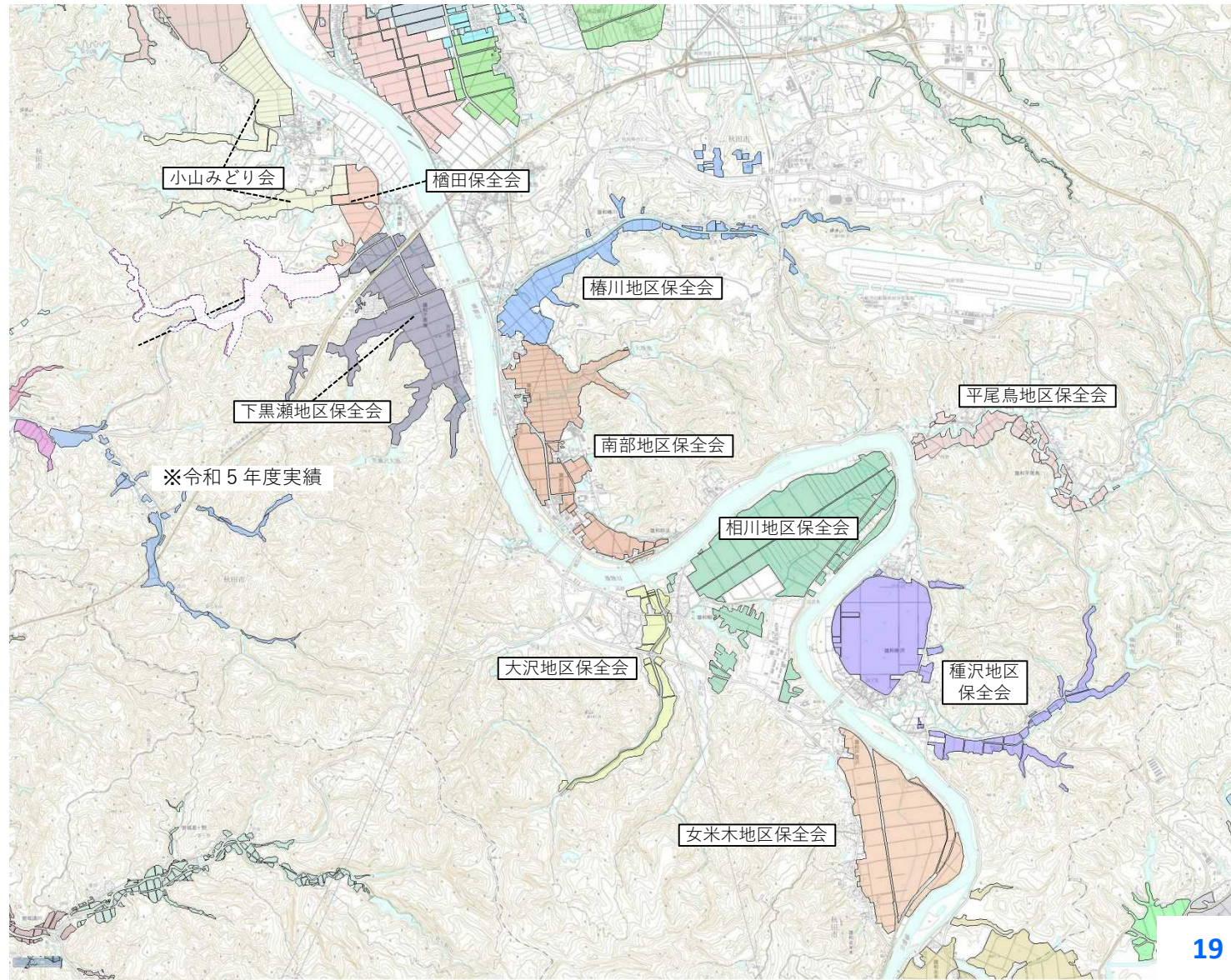
事業の沿革
柳林ため池は、秋田市南部25 k mの雄物川右岸山王堂川支流柳林に位置し、その下流30haにかんがいしているため池である。築造の年月は不詳であるが長い年月の間に、堤体の補改修を重ねてきて、大正14年に大改修を行った。
以来60有余年の歳月の経過とともにため池全体の老朽化が進み、堤体、洪水吐、取水施設からの漏水が著しく、かんがい用水の取水はもとより、治水及び防災上からも改修を余儀なくされる状況であった。
この時にあたり関係者は、地域の用水不足を解消し生産性の向上をはかり安定した営農を確立するため、事業の実施に向けて鋭意努力して来たところ、昭和58年度に県営ため池等整備事業として着工、総事業費296,500千円を投じ平成2年度をもって完成した。
ここに事業完成後の歓を深く刻み、後生の証とするものである。
平成2年11月



(隣の沢の釜ヶ沢ため池)



- 管内に10の多面活動組織が存在し、これらが受益地のほぼ全域をカバーしている。
- 土地改良区はこのうち8組織の構成員となっており、うち7組織の事務を受託。



- 土地改良区の受益地のうち、雄物川沿いの平地部において、ほ場整備事業が実施されてきた。
- 令和元年度に完了した「平沢地区」では、併せて園芸メガ団地を整備している。

